



地域医療連携室だより

Vol. 67

新年のご挨拶

大津市民病院長 片岡慶正



明けましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年度の診療報酬改定では“医療機関の機能分化・強化と連携、在宅医療”の充実が大きな骨子とされ、地域医療ビジョンの最適化に向けて、病床機能報告の義務付け、地域における役割分担の明確化とさらなる取り組み強化が求められるようになりました。高齢社会における医療の高度化と安全性は必ずしも平行せず、ホスト要因による不確実性などから療養期間が延長する場合も多々あります。DPC 医療機関では安全と質を担保して、適切な入院期間での治癒～退院を達成していただくことで、効率的な健全経営が可能となります。最新の電子カルテ導入から

1年が経過しましたが、リアルタイムの電子データの可視化と活用により、多くの情報が共有化され、院内連携が強化されてきたことを強く実感します。現在、大幅な救急受け入れ増加の中、平均在院日数は新基準でも 13 日未満、在宅復帰率は常に 90%超を維持しています。昨年 4 月から経営戦略室の新設とともにベッドコントロール医師の新規配置を行い、地域医療連携室ではチームとして患者の総合支援に努めています。ER 専属医師と若手医師の増員によるスタッフ強化は、救急診療現場の活性化をもたらし、市民の安心と信頼という大きな成果に繋がり、ドクターカーの試行運用も明るい話題です。超高齢者の救急搬送と緊急手術には複合リスクから大きな諸問題を有しながらも、ADL を保ちながらの高い在宅復帰率と長期入院患者の大幅減少は、安全かつ良質な医療の適正稼働と地域を含めた連動・連携の円滑運用の表れであると評価しています。皆様方のご協力に感謝いたします。

視点を変えて、未来に夢を追い求めれば、医療分野には明るい話題は尽きません。わが国は国民皆保険の下に、世界に類を見ない長寿社会を確立しました。今後は、病気になってからの“リアクティブ型医療”ではなく、健康推進、疾病予防、疾病管理や生活支援など“プロアクティブ型医療”の方向性、QOL に焦点があたる患者中心のエビデンスに基づく“パーソナライズ型医療”となるでしょう。今やわが国の医療分野にはあふれるほどのビッグデータが存在し、しかも眠っています。医療機関ごとにバラバラに保管された個人のカルテ、画像データ、処方箋、レセプトや健康診断結果が統合されて一覧できるようになれば、いつでもどこでもフリーアクセス可能なわが国の医療制度を逆手に取った形で、患者毎の医療・ヘルスケアの適正化と無駄の削減などが可能になります。複数の医療機関、介護施設、在宅サービス間のスムーズな連携もでき、慢性疾患の治療を安全かつ効率的に行うことができます。享受されるべきは患者ニーズとベネフィットです。ビッグデータの活用はバリューベース・ヘルスケアの扉を開ける第一歩です。

当院では日本医療機能評価機構、ISO9001(国際標準化機構)、NPO 法人臨床研修評価機構という第三者機関のトリプル認証により、医療の質向上に向けた取り組みを推進してきました。現在、電子カルテデータ活用の一つとして、日本病院会のQI(クオリティ・インディケーター:医療の質の指標)プロジェクトに参加し、その成果をHPで公開しています。一度ご覧いただければ幸いです。QIは医療の質を表す指標で、紹介率、逆紹介率、患者満足度調査、退院後6週間以内の救急医療入院率、入院患者の転倒・転落発生率、褥瘡発生率、手術前予防的抗菌薬投与率、尿道留置カテーテル使用率、糖尿病患者の血糖コントロール HbA1c7.0%未満率、脳梗塞における入院後早期リハビリ実施症例の割合、脳卒中患者の退院時に抗血小板薬を処方した割合、急性心筋梗塞患者におけるアスピリン投与割合、救急車・ホットラインの応需率など多岐に渡ります。全国 220 病院が参画していますが、お互い

にその成績を競い合うのではなく、経時的な QI 測定と目標を持って PDCA サイクルをまわすことにより、医療を透明化・可視化することで自施設の立ち位置を知るものです。医療データの活用の一つとして QI プロジェクトをご紹介しましたが、複数の医療機関や地域を結ぶ ICT による地域医療ネットワークの充実に大きく期待するものです。今後ますますの充実が望まれる在宅医療と病院機能のフル活用には“かかりつけ医”との緊密な連携が必須となります。びわ湖メディカルネットやあさがおネットの発展に大きく期待するものですが、本院としてできることは何でもする決意の下に、地域医療の将来ビジョンに大きな夢を抱いています。

昨年導入した内視鏡手術支援ロボット(ダヴィンチ)および頭腹部 3D-バイプレイン・フラットパネル血管内治療装置は驚異の治療成果で稼働し、最新鋭リニアックによる放射線治療はこの3月にスタートいたします。1月1日付けにて京都大学消化管外科准教授で胃・食道外科エキスパートの岡部寛先生を本院外科部長(消化管部門)にお招きしました。新年早々明るい話題を皆さまにお伝えできるのは望外の喜びです。「市民とともにある健康・医療拠点」の具現化に向けて、今年も邁進させていただきます。皆様方のご支援をお願いします。新しい年が皆様にとって、未(ひつじ)年にちなんで穏やかで幸多い年でありますようにご祈念いたします。



「歯科口腔外科」紹介予約医師の変更について(お知らせ)

平成 27 年 1 月より「歯科口腔外科」紹介予約医師を固定します。

ご希望の医師があります場合は、初診担当日にご紹介・予約をお願いいたします。

	月	火	水	木	金
初診・紹介	交代制	和田(第 1,3,5) 寺村(第 2,4)	寺村	和田	松本
紹介		松本			
再診	交代制	交代制	松本 和田 土田	松本 寺村 土田	寺村 和田

第 18 回総合内科症例検討会を開催しました！

12 月 4 日(木)に総合内科症例検討会を開催しました。院内外含め 36 名の方にご参加いただきました。

内科滝本医師より、「1 週間前から倦怠感が出現し来院、好酸球増多を指摘された高齢男性の 1 例」の症例についてプレゼンテーションがありました。かかりつけ医の先生で好酸球増多を指摘され紹介受診し、当院での精査で「好酸球性多発血管炎性肉芽腫症」と診断、副腎皮質ステロイド剤が著効した症例でした。本検討会を通して、院内スタッフ、研修医、コメディカルの教育だけでなく、地域の先生方、他院の先生方との交流の機会になることを願っています。次回は、平成 27 年 3 月 5 日(木)17:30~開催予定としていますので、多数のご参加をお待ちしています。

「滋賀県神経難病従事者研修会」開催のお知らせ

日時:平成 27 年 1 月 27 日(火)13:20~16:30

会場:栗東市文化芸術会館「さくら」

※詳細は、ホームページ・あさがおネットをご覧ください。

NST 勉強会

1 月 22 日(木) 17 時 30 分~19 時 00 分
大津市民病院 9 階会議室

「脳血管障害を併発したⅡ型糖尿病患者の栄養療法」

峠岡 佑典(内科医長)

※筆記用具・電卓をご持参ください。

旧年中は大変お世話になり、有難うございました。
新しい年を室員一同元気に迎えることができました。
本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

